

ふらっと南幌会報

発行元

NPO

ふらっと南幌

南幌町栄町
4丁目4番19号

378-2203

北海道e-水プロジェクト事業で取り組んだ「ミズゴケ研究」(熊本・東海大学星先生との協働)の最終ラウンドとして、「辻井達一博士メモリアルフォーラム」が十月二十六日、今後の展開方向をする検討会が十一月十五日にそれぞれ開かれた。「メモリアルフォーラム」には辻井博士とゆかりの深い約五十名が参加、札幌市立大学の矢部教授による基調講演に続き、事例報告と四氏(別表参照)のパネルディスカッションを行った。翌月の検討会には専門的な観点からのアドバイスをいただいた。遊水池群も水田も湿原は印象的。

辻井達一博士 メモリアルフォーラムを開催



「メモリアルフォーラム」の冒頭、コカコーラボトリング社の上原氏から「北海道を大切に思う人々との心のつながりが出来た」と祝辞。矢部教授の基調講演では「積雪量や水深によって生産性に差、また、他の植物との共生も重要」と強調、「ミズゴケは地理条件に順応する力がある」と自然栽培を提唱した。四団体による事例報告に続き、パネルディスカッション。「ほろむい七草」など由来希少種が(四頁に続く)

基調講演～「北海道における湿原再生の試み」
矢部和夫氏(札幌市立大学デザイン学部教授)

事例報告

中島康博氏「石狩川における自然再生の取り組み」
星 研究室(阿蘇におけるミズゴケ栽培)
モスシステム「北海道のミズゴケ栽培試験実践例」
ふらっと南幌「今年度のミズゴケ試験栽培」

ディスカッション

「湿原植生再生のためのミズゴケ基盤の確保」
パネリスト

矢部和夫氏「札幌市立大学デザイン学部教授」
星 良和氏「東海大学応用植物科学科准教授」
中島康博氏「北海道開発局札幌開発建設部」
坂元直人氏「(株)エコテック環境調査部長」
コーディネーター
濱田暁生「NPO法人ふらっと南幌 代表理事」

[eco田んぼ] ~ 収穫祭を満喫

軽トラ荷台で馬頭琴と喉歌披露

ジギスカンと採れ立て野菜でバーベキューをしながら、ハサガケ乾燥で熟成した「ゆめびりか」のおにぎりをほおばった。加えて参加者が持ち寄った果物や羊羹などにも舌鼓を打った。ある程度、お腹を満たした

音楽モードから嵯峨さんを囲んで再びバーベキューモードへ。刈り取りが終ったけれど、まだ青々しているエコ田んぼを見て「根が太いから元気」と賞賛の声。来年も続けることを確認、可愛い袋の「新米」を大事に持ち帰る。

初の試みであった「エコ田んぼ」の収穫祭が、十一月三日、三重地区の佐藤農園で開かれた。参加したのは田んぼオーナーをはじめ田植え、草取りなど援農してくれた子供たちや酪農大学生ら約三十名。名物・南幌

のちは文化的催し。全国各地でライブ活動中の馬頭琴と喉歌奏者である嵯峨治彦さんが登場。佐藤農園の倉庫に軽トラックを持ち込み、その荷台を舞台にする。モンゴル民謡など心を揺さぶる曲を一時間ほど披露していただいた。

自生できる環境を確保、資源として利活用を、「遊水池への再生は絶好のチャンス、情報の集積を」、「再生推進のために行政、大学、民間企業が共同事業として取り組むシステムを」など創生事業として産業化の展望も提唱された。

更なる発展を、活動検討会

事業として継続するためには「財源確保」は避けられない。今後の活動を検討しようとして、十一月十五日、専門家(矢部先生、星先生、錦織美唄林)の事業展開を「と確認。翌日は美唄湿原などを視察。業試験所主任研究員)のアドバイザー受けながら「活動検討会」を開催、「支援先確保は積極的に」、「発展する事業展開を」と確認。

